

科目名		在宅看護概論			
科目分類	統合分野	履修年次	1年次	履修時期	12月～3月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	在宅看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	在宅看護の機能・役割を学び、社会資源の活用と保健医療福祉チームの在り方を理解する。				
学習目標	1. 在宅看護の特徴・目的、またその対象を理解することができる。 2. 在宅ケアを取り巻く現状と問題から、地域包括ケアシステム・多職種との連携の重要性を理解する。				
回	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅看護の目的と特性 1) 在宅看護の社会背景 2) 在宅看護論を学ぶ意義 3) 在宅看護の特性 ①生活を重視するとは			講義 DVD視聴 ペアワーク	
2 3 4	3. 在宅看護の対象者と権利 1) 対象者の特徴 ①年齢 ②疾患 ③障害 ④状態別・健康レベル 2) 家族 ①介護家族の状況 ②虐待 ③家族に関する理論 ④家族アセスメント 3) 在宅療養の成立条件 4) 療養者の権利 ①自己決定への支援 ②在宅ケアでの意思決定に関する倫理的諸問題 A.成年後見制度			講義 ペアワーク グループワーク	
5 6	4. 在宅ケアを支える制度 1) 社会資源を活用する看護師の役割 1) 医療保険制度、介護保険制度 2) 訪問看護制度			講義 ペアワーク グループワーク	
7 8 9	5. 在宅ケアのマネジメントと多職種連携 1) ケアマネジメント 2) 地域包括ケアシステム、地域包括支援センター 3) 在宅ケアにおける多職種の役割、連携 3) 継続看護と退院調整			講義 グループワーク DVD視聴	
10 ～ 14	4) 関係機関と職種、保健・医療・福祉の連携 ①釧路の地域のケアシステムを理解する(GW)			グループワーク 発表	
15	筆記試験				

2020年度 釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

使用教材	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
参考文献	<p>1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>2. 新版 在宅看護論 医歯薬出版</p> <p>3. 在宅看護論 実践をことばに 第5版 ニューヴェルヒロカワ</p> <p>4. スキルアップのための在宅看護マニュアル 学研</p> <p>5. 新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護 中央法規出版</p> <p>6. G supple 場面で学ぶ 在宅看護論 メディカ出版</p> <p>視聴覚教材</p> <p>①DVD 私の訪問看護職場体験 16分</p> <p>②DVD 在宅看護論 第4巻 療養の場の移行に伴う看護～病院から退院するまでの実践を見てみよう～</p> <p>③DVD 在宅看護論 第3巻 療養を支える在宅看護ケアチーム～様々な職種の活動を知ろう～</p> <p>④DVD 在宅看護論 第5巻 様々な看護の実践～これからの在宅看護を色々な実践の場で感じよう～</p> <p>⑤DVD 命と生活を看守る訪問看護サービス</p> <p>⑥DVD 晴れた日ばかりじゃないけど</p>
成績評価の方法	<p>70点:筆記試験</p> <p>10点:受講態度、提出物、協同学習への取り組みなど</p> <p>20点:11～14講目グループワーク(提出資料、発表内容・態度、参加態度、質疑応答など)</p>

科目名	在宅看護援助論Ⅰ(在宅看護活動)				
科目分類	統合分野	履修年次	2年次	履修時期	5月～7月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	非常勤講師	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	在宅看護を提供する場における看護の内容や特徴を学び、在宅看護活動を理解する。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 訪問看護とは				講義
2	2. 在宅看護の制度 1) 訪問看護制度の創設と発展経緯				講義
3	3. 訪問看護制度 1) 訪問看護制の提供方法と種類 2) 訪問看護制度の課題 3) 訪問看護制度の法的枠組み 介護保険法・健康保険法・障がい者総合支援法 4) 訪問看護サービスのしくみと提供 5) 訪問看護の役割・課題				講義
4	4. 在宅看護の展開 1) 在宅看護過程展開のポイント ①対象者の生活と価値観の多様性の尊重 ②環境や家族への視点・時間的広がりへの着目 ③生活を支える制度・支援体制の理解				講義
5	5. 在宅看護過程の展開方法 1) 在宅看護過程の特徴 ①医療機関での看護との違い ②在宅看護過程の特徴・構成要素 ③情報収集とアセスメント ④在宅看護計画の立案とポイント ⑤実施と評価				講義 グループワーク
6	6. 他職種との連携 ①在宅における連携の特徴 ②医師との連携 ③介護保険の社会資源との連携 ④ネットワークづくり ⑤入退院時における医療機関と訪問看護連携				講義
7	7. 在宅看護における安全性の確保 ①在宅看護におけるリスクとは ②医療事故防止 ③感染防止 ④療養生活上の安全確保				講義
	試験				
使用教材	1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版 2. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
参考文献	1. 訪問看護ステーション 開設・運営・評価マニュアル 日本看護協会出版 2. 退院支援ガイドブック「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかかわる 学研 3. エラーニング 訪問看護 日本訪問看護振興財団				
成績評価の方法	筆記試験				

科目名	在宅看護援助論Ⅱ(日常生活援助・状態別看護)				
科目分類	統合分野	履修年次	2年次	履修時期	10月～2月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	在宅看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	在宅療養者の状態に応じた看護を学び、援助を実践する能力を身につける				
学習目標	1. 療養者と家族の生活行為に即し、創意工夫をして援助を実践する知識を身につける。 2. 在宅で治療の継続を必要とする療養者と家族への援助技術を習得する。 3. 状態別看護において在宅の展開のポイントを理解することができる。				
回	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅看護を展開するにあたって 1) 在宅看護を展開する上で検討すべきポイント 2) 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション ① 信頼関係の形成 ② 訪問時のマナー			講義 グループワーク	
2	2. 在宅で求められる技術の応用 1) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ① 在宅での食生活の特徴 ② 食生活・嚥下に関するアセスメント ③ 食生活・嚥下への介助のポイント ④ 嚥下訓練			講義	
3	2) 清潔に関する在宅看護技術 ① 在宅での清潔援助の特徴 ② 清潔に関するアセスメント ③ 清潔の介助に関するポイント 3) 排泄に関する在宅看護技術 ① 在宅での排泄の特徴 ② 排尿のアセスメントとケア ③ 排便のアセスメントとケア			講義 グループワーク	
4	4) 移動・移乗に関する在宅看護技術 ① 在宅での移動・移乗の特徴 ② 移動・移乗のアセスメント ③ 移動・移乗の介助に関するポイント 5) 呼吸機能に関する在宅看護技術 ① 在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴 ② 呼吸機能アセスメント ③ 呼吸機能への介助のポイント			講義 グループワーク	
5	3. 特殊な技術を伴う在宅看護 1) 経管栄養 2) 在宅中心静脈栄養(HPN) 3) 在宅持続皮下注入法			講義	
6	4) ストーマケア 5) 膀胱留置カテーテル 6) CAPD療法			講義	
7	7) 褥瘡ケア 8) 吸引			講義	
8	9) 在宅酸素療法(HOT) 10) 在宅人工呼吸療法(NPPVなど)			講義・事例検討 グループワーク	

2020年度 釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
9 10	4. 状態別在宅看護・看護過程の展開 1) 脳血管疾患	講義・事例検討 グループワーク
11 12	2) 認知症 ① 服薬管理	講義・事例検討 グループワーク
13 14	3) 難病 ① 緊急時・災害時の対応	講義・事例検討 グループワーク
15	試験	
使用教材	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院	
参考文献	1. 家族看護を基盤とした 在宅看護論 I 概論編 第3版 日本看護協会出版会 2. Essentials 在宅看護学 事例集付 医歯薬出版 3. 在宅看護論 実践をことばに 第5版 ニューヴェルヒロカワ 4. スキルアップのための在宅看護マニュアル 学研 5. 新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護 中央法規出版 6. G supple 場面で学ぶ 在宅看護論 メディカ出版 7. 写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ インターメディカ 8. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 9. パーフェクト臨床実習ガイド 在宅看護実習ガイド 照林社 10. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版	
成績評価の方法	筆記試験80% + 20%(講義態度、提出物、グループワークの態度、予習状況)	

科目名		在宅看護援助論Ⅲ（終末期の看護）			
科目分類	統合分野	履修年次	3年次	履修時期	4月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	専任教員	実務経験	在宅看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	終末期にある在宅療養者とその家族へのQOLの維持・向上を目指したケアを学び、看取りの看護を理解する。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 在宅終末期看護の特徴・役割 2. 在宅終末期看護の展開 1) 在宅移行時 2) 終末期前期 3) 終末期中期 4) 終末期後期 5) 在宅での看取り 6) グリーフケア 3. グループワーク説明… 事例検討グループワーク ※個人課題提出日時:4/9(月) 8:40				講義
2	事例検討のグループワーク				グループ討議
3	事例検討のグループワーク				グループ討議
4	事例検討のグループワーク ※グループ資料提出日時:4/17(火) 13:10				グループ討議
5	事例検討結果の発表・質疑応答 事例検討の講評・考えるポイント				講義
6	事例検討結果の発表・質疑応答 事例検討の講評・考えるポイント				講義
7	在宅ターミナルケアの実際				講義
8	試験(45分)				
使用教材	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2. 在宅看護論 実践をことばに第6版 スーヴェルヒロカワ 3. 知識が身につく! 実践できる! よくわかる在宅看護 学研 4. 関連図で理解する 在宅看護過程 メヂカルフレンド社 5. 在宅ターミナルケアのすすめ 日本看護協会出版会 6. 訪問看護のための事例と解説から学ぶ在宅終末期ケア 中央法規出版 7. 演習・実習 在宅看護論 医歯薬出版				
成績評価の方法	筆記試験65% 事例課題への取り組み・提出物など 35%(内訳下記参照) 内訳:個人15%・グループでの提出物の内容10%、グループワークの発表態度・質疑応答、個人のグループ飼料への質問など10%				